



12月号
平成29年12月25日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たくましい荘川っ子

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

荘川子育て ALL STAFF

校長 水口 悟

雪下麦を出だす (せつか むぎを いだす 冬至・末候)

降り積もる雪の下で、麦が芽をだすころ。地中や、冬木立の枝先で植物は芽吹く力を育みます。(新暦では、およそ十二月三十一日～一月四日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

1. 「地域 学校 協働活動」文部科学大臣表彰 受賞！

今回、平成29年度「地域学校協働活動」推進に係わり、文部科学大臣表彰を頂くこととなりました。この協働の活動は、全国の学校だけではなく多くの地域団体により実践されています。その中で県内3つに選ばれ、さらに文部科学省による審査の結果、文部科学大臣表彰に決定されたことは、本当に価値の高いことです。荘川町の皆さんにとっては、日常的であたりまえの協働活動であるのかも知れませんが、全国的な視点からその活動を見てみると、本当に質の高い地域と学校による協働の教育活動です。また、今後、国が求めている理想の子育て・教育を既に荘川町では行っている(きた)ことが、改めてよく分かりました。

2. 国の動き

国は、全国的に進む少子高齢化社会の中で、日本の将来を担う子どもたちを国民総がかりで育まなくてはならないという強い危機感を持っています。今回の表彰のタイトル「地域学校協働活動」において、地域が先にあるところがポイントです。学校教育は、働き方改革が叫ばれるほど、その仕事内容は膨大になり複雑化しています。そこで、地域の教育力や教育資源(人・物・事・まるごと)をもっともっと活用し、地域総がかりで未来を担う子どもたちを育む施策を打ち出したのです。

荘川町では、学校は、地域とともにある学校(保小中一貫教育)づくりを進めています。荘川の地域は、学校を核としたまちづくりを進めています。その架け橋として、郷土学習(町探検・獅子舞い・蕎麦体験・荘川桜・新島研修等々)が位置付いています。正に、地域と学校が、学校と地域が双方向から協働して、子どもたちを育む仕組みが存在し機能しています。全国レベル!です。荘川の結いの心!です。

3. 荘川のすばらしい 子育て・教育環境

1つ目は、豊かな自然です。ユネスコエコパークです。春夏秋冬の季節感あふれる環境の中で、子どもたちは豊かな感性や感受性を育てています。2つ目は、荘川のまちが一体となって行われるお祭り・伝承文化です。子どもたちも大人と一緒に、地域の一員として文化継承の意志を高めています。3つ目は、子育てネットワークがあることです。子どものことになると、皆が惜しみなく力をかしてください。4つ目は、小規模校のよさを生かし12年間をつないだ保育・教育の体制が整備されています。また、学校から地域に対する「協働活動」が、日常的に沢山あります。保護者との会話(挨拶)、地域の方々との会話(挨拶)、学級通信、PTA活動、郷土学習、保小中合同運営協議会(学校評議員会)・・・地域から学校に対する「協働活動」も、日常的に沢山あります。教職員との会話(挨拶)、スクールサポーター、デイキャンプ、ふれあい研修大会、新島研修、郷土学習の講師(獅子舞い、ひねり踊り、蕎麦づくり等々)・・・すばらしい!

保護者の皆様、地域の皆様、学校を支えて頂き感謝の気持ちで一杯です。よいお年をお迎えください。